

研修のテーマ

地域の宝を訪ねて～坂本養川せぎと中ッ原遺跡

- 1 期 日 平成30年7月25日 (水) 9:00 ~ 11:30
- 2 目的地 坂本養川せぎ と 中ッ原遺跡
- 3 講師 中洲公民館 関 雅一 先生
- 4 日 程 集合8:50 = 9:00 出発 = 城の平別荘地大河原せぎ取り入れ口 9:30
= ふしぎな川 10:00 = 乙女滝 10:30 = 中ッ原遺跡 11:00 = 解散 11:30
- 5 研修の概要

以前、4年生の社会科教科書に掲載されていた「坂本養川堰」。八ヶ岳の裾野に広がる田園風景の基礎を作り上げた「坂本養川堰」をめぐり、自然の川から巧みに用水路をひきだした養川の工夫を体感したり、堰と自然の川との違いを見たりしながら、地域をより深く理解し、地域の宝をどのように教材化していったらいいかを学びあった。



<城の平別荘地大河原せぎ取り入れ口>

現在も玉川地区の方々が水の管理をしている。きれいに草刈りがされ、水量の調整なども行われていた。石を巧みに並べ、水の流れ(用水路)を作った形跡がみられた。今ではコンクリートで整えられているが、200年前はどのようなであったかと思いを馳せた。



<ふしぎな川>



用水路と自然の川が交差している所。水の中を歩き、流れが交差するところを歩いた。何も知らなければ、どちらが用水路か分からないほど、自然な流れだった。

<乙女滝・繰越堰>

観光名所にもなっている「乙女滝」。この滝が堰の一部であるとは意外だと感じる人がほとんどであろう。マイナスイオンたっぷりの爽快な水しぶきであった。乙女滝を落ちた堰の流れは、渋川と交差する際に、川の上を樋で通っている。これが繰越堰である。



今から約200年前、江戸時代の中期から後期にかけて、地形によって、自然の川と直接交差させたり繰り越させたりしながら、農業用水路を計画実現した養川の知恵と工夫に、改めて感慨深いものを感じ、郷土を想い郷土を拓いた養川の功績を、きちんと子どもたちに伝えていかなければいけないと感じた。



<中ッ原遺跡>

平成26年に国宝に指定された土偶「仮面の女神」が出土した中ッ原遺跡は湖東小学校区内にある。

学区周辺に国宝があるという恵まれた環境を、子どもたちの学習に活かせるよう、さらに研修を積んでいきたい。

